

【6.6.2.1】米国における特許を対象にした企業動向調査

Q

グーグル（GOOGLE）の出願動向を把握したい。

1) 調査ツールの選択

米国における特許は、米国特許商標庁（以下、USPTO）が提供する PatFT、AppFT、世界知的所有権機関（以下、WIPO）が提供する PatentScope や欧州特許庁（以下、EPO）が提供する Espacenet などに収録されている。いずれのツールも十分な収録状況であり、また高機能な検索機能が備わっているが、ここでは統計分析機能が備わっている WIPO の PatentScope を利用した事例を紹介する。

2) 検索事例

PatentScope の検索画面は下記 URL から接続することができる。日本語版以外にもモバイル版、英語版、ドイツ語版、中国語版、韓国語版など複数のインターフェースが用意されている。また、検索画面には 4 つの検索モードが用意されているので目的に合わせてモードを選択する。

<https://patentscope.wipo.int/search/en/search.jsf>

◆検索モードの紹介

簡易検索：フルテキストや氏名(名称)など 8 種類の検索フィールドから 1 つを選んで検索を行う。

詳細検索：検索ボックスに検索語、検索式、フィールドコードなどを指定した検索構文を入力して、複数の条件を組み合わせた検索を行う。

構造化検索：発明の名称や要約など複数の検索フィールドでそれぞれ検索条件を指定し、それらの条件を組み合わせた検索を行う。

多言語検索：入力した検索用語を自動的に 12 言語に翻訳し、その全てを使って特許文献の検索を行う。



今回は、複数の検索項目を設定でき、より目的に近い検索ができることから「構造化検索」モードを選択した事例を紹介する。

◆調査目的および調査対象

調査対象例として下記の調査目的および対象企業を設定した。

調査目的：米国において、ある企業の出願動向を確認する

調査対象企業：グーグル社

◆予備検索・準備編

まず出願人名の揺らぎ・関連子会社の確認をする必要がある。「構造化検索」モードを選択し、画面左側にある検索項目メニューの「出願人氏名（名称）」の欄に【グーグル】と日本語で入力し、画面右下の「検索」ボタンを押す。

及び	▼	要約 (日本語)	▼	=		?
及び	▼	出願人氏名 (名称)	▼	=	グーグル	?
及び	▼	国際特許分類	▼	=		?

HITした文献があれば、それらの書誌一覧が表示される。

WIPO PATENTSCOPE 国際・国内特許データベース検索

Mobile | Deutsch | English | Español | Français | 한국어 | Português | Русский | 中文 | العربية

WORLD INTELLECTUAL PROPERTY ORGANIZATION

検索 閲覧 翻訳 オプション 最新情報 ログイン ヘルプ

ホーム > IP サービス > PATENTSCOPE

検索結果: 1 - 10/954 件 検索条件: PA:グーグル 言語:all 言語:JA 語幹処理:true

戻る 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 次へ Page: 1 / 96 Go >

絞り込み検索 PA:グーグル 検索 RSS

Instant Help

結果分析

並び替え: 公開日 (新しい順) View: 詳細表示 表示件数: 10 自動翻訳

国際特許分類	出願番号	発明の名称	出願人	発明者	公開日
1. 2016207223	第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスへのアプリケーションの状態の転送		グーグル インコーポレイテッド		08.12.2016
G06F 13/00	2016138553		クシェー, アレクサンダー, フリードリヒ		

【課題】 開示される主題は第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスにアプリケーションの状態を転送するためにコンピュータで実行される方法に関する。
【解決手段】 一態様において、方法は第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスに第1アプリケーションの状態を転送するための第1の要求を第1コンピュータデバイスから受信することを含む。方法は前記転送を開始するための承認を求め第2の要求を第2コンピュータデバイスに送信することをさらに含む。方法は前記転送を開始するための前記承認を第2コンピュータデバイスから受信することをさらに含む。方法は受信した前記承認に基づいて第1アプリケーションの状態を第1コンピュータデバイスから受信することをさらに含む。方法は受信した第1アプリケーションの状態を第2デバイスに送信することをさらに含む。
【選択図】 図2

しかし HIT した文献の書誌一覧をみても出願人の英語表記がないので、一覧の左上の公開番号をクリックし下記書誌情報を表示する。

国内書誌情報

パーマリンク/ブックマーク:

出願番号: 2016138553 出願日: 13.07.2016
 公開番号: 2016207223 公開日: 08.12.2016
 公報種別: A
 IPC: G06F 13/00
 出願人: グーグル インコーポレイテッド
 発明者: クシェー, アレクサンダー, フリードリヒ
 ヴェルナー, トロン, トーマス
 ステファノフ, フリスト, ステファノフ
 代理人: 特許業務法人 深見特許事務所
 優先権情報: 13/562,209 30.07.2012 US
 発明の名称: (JA) 第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスへのアプリケーションの状態の転送
 要約: (JA)

【課題】 開示される主題は第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスにアプリケーションの状態を転送するためにコンピュータで実行される方法に関する。
【解決手段】 一態様において、方法は第1コンピュータデバイスから第2コンピュータデバイスに第1アプリケーションの状態を転送するための第1の要求を第1コンピュータデバイスから受信することを含む。方法は前記転送を開始するための承認を求め第2の要求を第2コンピュータデバイスに送信することをさらに含む。方法は前記転送を開始するための前記承認を第2コンピュータデバイスから受信することをさらに含む。方法は受信した前記承認に基づいて第1アプリケーションの状態を第1コンピュータデバイスから受信することをさらに含む。方法は受信した第1アプリケーションの状態を第2デバイスに送信することをさらに含む。
【選択図】 図2

NO IMAGE AVAILABLE

しかし書誌にも出願人の英語表記がないので、インターネットなどを利用し出願人の英語表記を確認すると、GOOGLE であることがわかった。

ちなみに PatentScope における収録情報は各国公報のテキスト情報が原語のまま収録されており、日本語で検索できるのは日本特許と日本語で出願された PCT 出願 (WO 公報) だけである。したがって、

米国特許を対象に名義検索をする場合には英語で検索する必要がある。

以上をまとめると、準備作業としてグーグル社の英語の正式名称を確認する方法を示した。具体的には、出願人名を日本語で検索し、そこから英語の出願人名義を確認する方法を示した。今回は、出願人名を日本語で検索したが英語の出願人名義を確認できなかったため、インターネットなどを利用して英語での名義を確認した。また欧州企業などのように正式名称が英語表記以外の場合もある。その場合にはインターネットなどを利用して正式な名義を確認する必要がある。特に PatentScope はテキスト情報が原語で収録されていることから、原語での正式名義も確認する必要があることに注意されたい。

グーグル社を検索する場合の名義は、GOOGLE と特定した。

◆実践編

検索対象名義を GOOGLE と特定したので、実際に米国における特許に対する検索を行う。

まず「構造化検索」モードを選択し、検索言語を「英語」に変更する¹。しばらくするとプルダウンメニューが英語用に切り替わるので、それを確認してから左側のプルダウンメニュー（どの行でも良い）を「国名（国コード）」とし右側の検索ボックスに【US】と入力する。次いで「出願人氏名（名称）」に【GOOGLE】と入力し、「検索」ボタンをクリックする。検索において大文字と小文字の区別はない。

The screenshot shows the PatentScope search interface. The 'Language' (言語) dropdown is set to 'English' (英語). The 'Country (Country Code)' (国名 (国コード)) dropdown is set to 'US'. The 'Applicant Name (Name)' (出願人氏名 (名称)) dropdown is set to 'GOOGLE'. The 'Search' (検索) button is highlighted. The interface also shows various other search criteria like 'Invention Name (English)', 'Abstract (English)', 'IPC Class', 'Inventor Name (Name)', 'Official Code', 'Detailed Description (English)', 'Request Scope (English)', 'Licensing Availability', and 'Inventor Name (Name)'. The 'Search' button is located at the bottom right of the search area.

¹本書においては KW 検索をしていないので言語を英語にする必要はないが、企業名に加え KW で絞り込んだ分析をする場合を想定し、本書では言語を英語に設定する手順を紹介している。

検索を実行すると書誌一覧が表示されるが、ここで「結果分析」ボタンをクリックすると自動的に統計分析が実施されるので、この機能を利用する。

WIPO PATENTSCOPE 国際・国内特許データベース検索

WORLD INTELLECTUAL PROPERTY ORGANIZATION

検索結果: 1 - 10/16,711 件 検索条件: CTR:US AND PA:GOOGLE 官庁:all 言語:EN 語幹処理:false

絞り込み検索: CTR:US AND PA:GOOGLE

結果分析

並び替え: 公開日 (新しい順) View 詳細表示 表示件数 10 自動翻訳

国際特許分類	発明の名称	出願番号	出願人	Ctr	公開日
1. 20170000418	Performance of a Diagnostic Procedure Using a Wearable Computing Device			US	05.01.2017
A61B 5/00		15266960	Google Inc.	Adrian Wong	

The present disclosure describes example systems and methods for identifying an indication of an injury of a user of a wearable computing device. The systems and methods may be directed to determining that an acceleration experienced by the wearable computing device exceeds a threshold value. In response, the wearable computing device may perform a diagnostic procedure in order to identify an indication of an injury experienced by the user of the wearable computing device. The diagnostic procedure may include one or more of an eye response test, a verbal response test, a motor response test, and a visual diagnostic test.

「結果分析」ボタンをクリックすると IPC や発明者、出願人などの一覧表が表示される。

WIPO PATENTSCOPE 国際・国内特許データベース検索

WORLD INTELLECTUAL PROPERTY ORGANIZATION

検索結果: 1 - 10/16,711 件 検索条件: CTR:US AND PA:GOOGLE 官庁:all 言語:EN 語幹処理:false

絞り込み検索: CTR:US AND PA:GOOGLE

結果分析

オプション ● 表 ● グラフ ● オプション ● 棒グラフ ● 円グラフ ● Line

国名	国際特許分類 (メイン)	発明者 (単頭)	出願人 (単頭)	公開日
国名 ↓ No ↓	IPC ↓ No ↓	氏名 (名称) No ↓	氏名 (名称) ↓ No ↓	日付 ↓ No ↓
United States 16711	G06F 9192	Baluja Shumeet 110	Google Inc. 13790	
	H04L 2345	David Sloo 101	GOOGLE INC. 1798	
	G06Q 1914	Yoky Matsuoka 100	Google Technology Holdings LLC 710	
	H04N 1516	Anthony Michael Fadell 75	Google, Inc. 242	
	G06K 1154	Matthew Sharifi 69	GOOGLE TECHNOLOGY HOLDINGS LLC 144	
	H04W 1055	Tong Simon 69	Motorola Mobility LLC 106	
	G06T 744	Justin Lewis 67	MOTOROLA MOBILITY LLC 69	
	G10L 600	Matthew Lee Rogers 63	Baluja Shumeet 47	
	H04M 486	Jay D. Logue 57	Hickman Ryan 36	
	G01C 462	Ghemawat Sanjay 56	GOOGLE Inc. 34	

この画面からは、IPC ランキングが分類コードと出願件数、出願人ランキングが出願人の名称と出願件数、そして公報の発行年ごとの出願件数が見てとれるので、具体的な内容を把握することができる。

このように初期設定は表形式となっているが、表示形式をグラフ形式に変更すれば、棒グラフや円グラフを表示させることができる。

The screenshot shows the '結果分析' (Result Analysis) interface. At the top, there are two sets of radio buttons for 'オプション ● 表 ● グラフ' and 'オプション ● 棒グラフ ● 円グラフ ● Line'. Below these are five tabs: 'Country', 'Main IPC', 'Main Inventors', 'Main Applicants', and 'Publication Date'. A pie chart titled 'Countries' is displayed, with a legend for 'United States'. Three blue callout boxes provide instructions: 1. '表示モードは表形式とグラフ形式の2つオプションでグラフの種類を選択する' (Select the graph type from two options: table mode and graph mode). 2. '表示モードでグラフを選択した場合には右側のオプションが有効になる' (When a graph mode is selected, the options on the right become active). 3. '分析軸は国、メインIPC、メイン発明者、メイン出願人、公開日の5つ' (The analysis axes are country, main IPC, main inventor, main applicant, and publication date).

円グラフあるいは棒グラフを作図させるには、左側のオプションから「グラフ」を選択し、右側のオプションから「棒グラフ」または「円グラフ」を選択し、さらに分析軸を指定するのだが、企業動向調査としては次のような分析軸を指定する方法が有効である。

- ◆ Main IPC （注力している技術分野がわかる）
- ◆ Publication Date （出願の時期から、開発の変遷や将来動向がわかる）

例えば「グラフ」の「円グラフ」を選択し、「Main IPC」をクリックすると、このようなグラフが作図される。

The screenshot shows the '結果分析' (Result Analysis) interface with 'Main IPC' selected. The pie chart is titled 'Main IPC' and shows a large slice for 'G06F' at 47%. A legend on the right lists various IPC codes: G01C, G06F, G06K, G06Q, G06T, G10L, H04L, H04M, H04N, and H04W. A blue callout box at the bottom right states: 'IPC 分析 技術的な傾向・偏りを示すデータ' (IPC Analysis: Data showing technical trends and bias).

この結果、最も出願件数が多いのは G06F（電氣的デジタルデータ処理）であることがわかる。



またオプションで「棒グラフ」を選択し、さらに「Publication Date²」をクリックすると、時系列に整理された年次推移グラフが作図される。このグラフからは、2010 年以降、急激に出願件数が増加したことがわかる。

²初期設定では 10 年分しか表示されないため、設定を変更している。変更は、画面上部の「オプション」>「設定」>「結果表示」をクリックし、「グループ毎表示件数（分析）」の値をプルダウンメニューより適宜選択することで実行できる。この図は値を 20 に変更して作図したものである。

◆まとめ

このように、PatentScope を利用して名義検索を行い、「結果分析」機能を活用すれば、企業の知的財産戦略の概要を把握することができる。

より複雑・高度な分析を行いたい場合には、HIT した文献の書誌データ、特に出願日・公開日・IPC のデータをダウンロードし、これを表計算ソフトなどで加工することで 2 軸分析を行うことも可能である。

Point

PatentScope はテキスト情報が原語で収録されていることに留意する必要がある。これは、名義検索をする場合には非英語（原語）の企業名も確認する必要があるということを意味する。ただし米国特許の場合、基本的には英語の名義で問題ない。

PatentScope の「結果分析」機能を利用すれば、ランキングや年次推移などの統計分析結果（表またはグラフ）を表示させることができ、企業動向分析に活用することができる。